

広告

# 歯科インプラント治療——信頼できる医師選びが重要

## 九州インプラント研究会 座談会

必要な情報の提供と丁寧な説明こそが信頼回復への第一歩

歯を失った部分に人工歯根(インプラント)を埋め込み、人工の歯を取り付けるインプラント治療。歯を失った部分だけで治療ができるため、隣接する健全な歯を削る必要がない上に、回復後自分の歯と同じような感覚で噛めるというのが大きなメリットである。しかし、インプラント治療の恩恵に預かる人がいる一方で、事故やトラブルの報告もなされている。信頼されるインプラント治療とはどうあるべきか。(公社)日本口腔インプラント学会の渡邊文彦理事長を交え、九州インプラント研究会(KIRG)の伊東隆利会長、会員の先生方に語り合ってもらった。

※九州インプラント研究会(Kyushu Implant Research Group, KIRG)  
インプラント治療の向上と発展を目指し、開業医と大学研究者により結成されたスタディグループ

### 専門医制度の確立を目標に 医師選びに必要な情報提供を

**伊東** 昨年から今年にかけてインプラント治療に関する報道が相次ぎ、国民のインプラント治療に対する信頼が揺らいでいます。  
**渡邊** 学会としても、どう対応すべきかが問われている時だと痛感しています。なぜこのような状況が起こっているのか、国民生活センターからの要望書を参考に信頼を回復するには、トラブルの原因を説明するとともに、その対応と解決法を提示することが急務です。併せて、確かな知識と技術、倫理観を併せ持った専門医の養成、および制度の確立も必要不可欠だと考えます。現在、日本口腔インプラント学会では、専門医制度規定を設けており、専門医の申請や認定にはかなり厳しい条件を課しています。



九州インプラント研究会  
会長 **伊東 隆利** 氏  
(伊東歯科口腔病院 院長)

### 事前説明から術後のケアまで徹底した サポートでQOLを高める歯科治療へ

**伊東** インプラント治療はカウンセリングに始まり、術後のメンテナンスに至るまで長期間に及ぶものであり、患者さんとの信頼関係の上に成り立つ治療です。国民生活センターへの相談内容を見ると、事前の説明が十分であったケースも少なくありません。患者さん一人ひとりの病歴や口腔環境と照らし合わせながら、メリットとデメリット、リスクも含めしっかりと説明することが治療の大前提です。

**香月** メリットという点では、インプラントは咀嚼能力が高く、自分の歯と同じような感覚で食べることができ、元の審美性も保てます。思いきり笑え、食事や会話を楽しむことができるというのは、人生の喜びに繋がります。



佐賀医科大学名誉教授  
医学博士 **香月 武** 氏

**阿部** 残存歯数と年齢との関係を見ると、50歳過ぎからドミノ式で歯がなくなっていくと、残念ながら「8020」(80歳で20本自分の歯を保つ)は難しく、基本的に今は55歳で20本「5520」が現状です。今後さらに高齢化が進むことを考えた場合、インプラント治療の存在はますます重要になると思われます。若年期から自分の歯をきちんと管理し、状況に応じてインプラントを併用していけば、「8020」も可能だと思います。



あへ歯科インプラントクリニック  
院長 **阿部 成善** 氏

**森永** 最近はインプラント技術も向上し、補綴(ぼてい)ブリッジ、クラウンなどの治療と比べても、耐久性や親和性など遜色がないものになっています。インプラントは治療後のメンテナンスが絶対に必要で、その説明を怠るとトラブルを招きかねません。治療を希望される方には、メンテナンスの重要性を理解していただき、メンテナンスができない方には向かないということもしっかり伝えるべきです。きちんとメンテナンスを行い、25年、30年以上持たせている方もいます。そのへんの情報もしっかり伝えていきたい。



森永歯科クリニック  
院長 **森永 太** 氏

**渡邊** インプラント治療を行う歯科医師は日本口腔インプラント学会に所属していただくとともに会員一人ひとりがより安全で安心なインプラント治療の追求が自分たちの使命であるという自覚を持ち、日々研鑽努力していくことが何よりも大切です。みなさんの意見を参考に学会としても信頼回復に向け、関係諸機関と協力しながら全力で取り組みたいと思います。



土屋デンタルクリニック  
院長 **土屋 直行** 氏

**伊東** 国民生活センターからの要望もふまえ、学会でいくつかの取り組みが進められています。九州インプラント研究会でも、トラブルや事故防止のための基本的な医院のシステム作りをまとめ、「インプラント治療と医療安全」として出版しました。

**渡邊** 学会では「口腔インプラント臨床指針」や「インプラント治療のためのチェックリスト」を作成しています。チェックリストについてはダウンロードして治療の現場で使えるようにしていますので、ご利用いただきたい。また、患者さんが転居などで他の施設を受診する際に、施術の情報や経過がわかる「インプラントカード」の普及にも取り組んでいます。

**土屋** インプラントに関心がある方はたくさんおられるので、そういう方々の不安を解消することも我々の務めです。そのためには、インプラントの耐久性や成功率も含め、患者さんの知りたい情報を集めた「患者さんの視点に立った患者さんのためのガイドライン作り」にも取り組んでいただければと思います。

**香月** 患者さんの視点に立った具体的な取り組み、専門医としての地道な努力の積み重ね、真摯な姿勢こそが国民のみなさんの信頼を取り戻すことに繋がります。

**土屋** インプラント治療に対する患者さんの期待に応えるためにも、「臨床方針」や「チェックリスト」などを活用しながら、安心・安全な治療を第一に日々の診療に取り組んでいく。その基本姿勢を堅持しながら技術の向上に努め、長寿社会の健康づくりに貢献できればと思います。

**渡邊** インプラント治療を行う歯科医師は日本口腔インプラント学会に所属していただくとともに会員一人ひとりがより安全で安心なインプラント治療の追求が自分たちの使命であるという自覚を持ち、日々研鑽努力していくことが何よりも大切です。みなさんの意見を参考に学会としても信頼回復に向け、関係諸機関と協力しながら全力で取り組みたいと思います。



公益社団法人日本口腔インプラント学会  
理事長 **渡邊 文彦** 氏

インプラント専門医が承認され「インプラント専門医」を標榜できるようになればと考えています。

**渡邊** インプラント治療に関する国民への啓発は学会の大きな課題のひとつです。専門医制度に関しては、現在、日本口腔インプラント学会として専門医推進委員会を立ち上げており、将来的には、

の大きな課題のひとつです。専門医制度に関しては、現在、日本口腔インプラント学会として専門医推進委員会を立ち上げており、将来的には、